

第62回しすない農業協同組合通常総会開催

定款の一部変更等全6議案原案通り可決

4月10日、新ひだか町公民館において「第62回しすない農業協同組合通常総会」が開催されました。



冒頭挨拶において、片岡禹雄代表理事組合長は「国内農業においては、農業者の高齢化・担い手不足など構造的な問題を抱えるなか「食料・農業・農村基本計画」が見直され、2020年には食料自給率50%が目標とされ、農地制度改革、戸別所得補償制度の導入に加え、農業者自らの販売・加工を後押しする「農業・農村の第6次産業化」の推進など農業

政策は大きな転換期を迎えております。

さらに、WTO農業交渉やEPA・FTA交渉の決着如何によつては、食料基地である北海道農業にとつて壊滅的な影響が予想されることから、JAGグループ北海道の一員として対応を図つて参ります。

当JAにおける昨年度の農畜産物の取り扱いについては、15億2900万円の計画に対し、15億1800万円に止まりました。

特に主力作物のミニトマトについては、日照不足と価格低迷の影響から、数量・価格とも計画を達成することが出来ませんでした。

一方、複合作目として奨励してきた黒毛和牛については、景気低迷の影響から販売価格は低調ではありましたが、販売頭数の増加により、前年比6900万円増の2億6600万円となりました。

市場での高い評価は、生産者の積極的な取り組みと関係機関のご協力の賜物と深く敬意を表するとともに今後複合作目として黒毛和牛の推進を図つて参ります。

ホッカイドウ競馬につきましては、昨年度より「北海道軽種馬振興公社」によつて、門別競馬場をメインに開催しております。



応援バスツアーの運行やAiba祭の開催など関係機関・団体等の特段のご協力・ご支援により、前年比四億円増の115億円の発売実績をあげることが出来ました。

本年度はホッカイドウ競馬改革ビジョンの最終年度であり、本年度の結果を踏まえて、存廃議論がなされることから、昨年以上の支援・応援が求められるところであります。馬産地競馬の灯を消さないためにも、一人でも多くの方が、門別競馬場へ足を運び、ホッカイドウ競馬へのご

支援を賜りますようお願い申し上げます。

JA事業については、経済不況による消費低迷などの影響を大きく受け、各事業とも取扱量が伸び悩み、部門収益の確保に苦戦しましたが、事業管理費をはじめとした経費抑制・節減により、当期剰余金は計画対比2280万円増の3432万円を計上することが出来ました。組合員各位には厳しい農業経営の中、JA事業をご利用・ご協力頂いた結果であり、感謝とお礼を申し上げます。



また、健全性を示す自己資本比率は、前年対比0.83%増加し、10.06%となりました。北海道J